

2025年7月31日

2026年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード:2053
ホームページ <https://www.chubushiryō.co.jp/>
お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部

目次

26.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 変動費及び固定費の状況	11
③ 原料ポジションの状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

◇ 今後の見通し①	16
◇ 今後の見通し②	17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス	21
◇ 参考資料	22

26.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 変動費及び固定費の状況	11
③ 原料ポジションの状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

◇ 今後の見通し①	16
◇ 今後の見通し②	17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス	21
◇ 参考資料	22

連結経営成績

(単位:百万円)

	通期計画	25.3 1Q	26.3 1Q	前年同期比	計画進捗率
売上高	212,000	52,104	52,279	175	24.7%
飼料	194,500	48,070	47,917	△153	24.6%
その他 ※1	17,500	4,034	4,362	328	24.9%
営業利益	5,200	836	1,114	278	21.4%
経常利益	5,600	1,045	1,334	289	23.8%
セグメント利益 ※2	5,850	1,143	1,439	295	24.6%
飼料	5,200	842	1,178	336	22.7%
その他 ※1	950	299	231	△ 67	24.4%
調整額 ※3	△300	1	28	26	—
当期純利益	4,100	794	1,024	229	25.0%
設備投資額	3,500	961	721	△239	20.6%
減価償却費	3,050	682	714	32	23.4%
基金負担金	5,500	1,301	1,346	44	24.5%

◇ 売上高は増加

○ 飼料セグメントは畜産飼料販売量が
増加したものの、水産飼料販売量減少
により減収

○ その他セグメントは鶏卵販売の販売量
増加により増収

◇ 営業利益は増益

○ 畜産飼料の原料ポジションの改善と
畜産飼料の販売量増加による

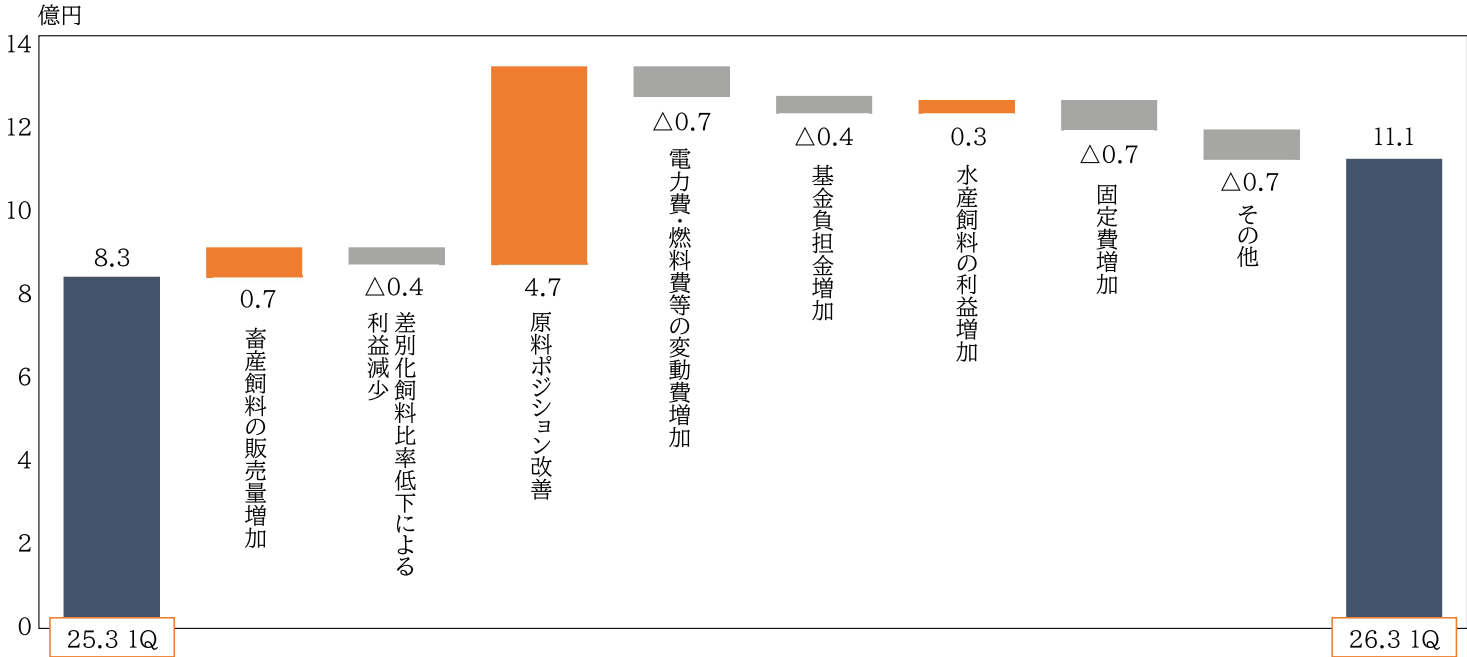
◇ 飼料セグメントは10ページ以降
その他セグメントは14ページを参照

◇ なお調整額は、受取配当金と投資有価証券
売却益の増加により改善

※1. その他セグメント:鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
 2. セグメント利益:税金等調整前当期(四半期)純利益
 3. 調整額:各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

営業利益の増減要因

◇ 営業利益は、変動費増加と固定費増加等があるものの、原料ポジション改善により増益



5

連結財政状態

26.3期 1Q 要約連結貸借対照表

(単位:億円)

流動資産	635 (△25)
現預金	78 (△40)
売上債権	390 (+1)
たな卸資産	127 (+17)
流動比率	302.0%(+18.8pt)
固定資産	356 (+2)
有形	257 (+0)
無形	3 (△0)
投資その他	95 (+2)
総資産	992 (△23)

負債	314 (△26)
買掛金	148 (△3)
有利子負債	80 (△18)
DEレシオ	0.12倍(△0.02倍)
純資産	678 (+2)
株主資本	643 (△0)
その他包括利益	34 (+3)
非支配株主持分	0 (△0)
自己資本比率	68.2 %(+1.8pt)
負債・純資産	992 (△23)

[参考] DEレシオ:負債資本比率。有利子負債が自己資本の何倍かを計算した数値。

6

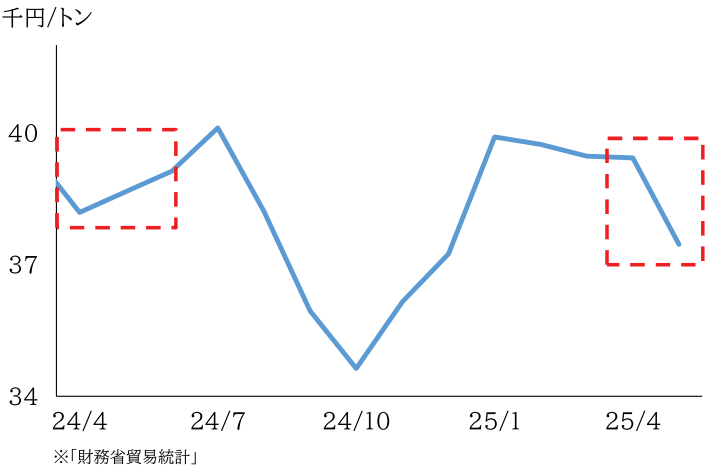
事業環境①

- ◇ とうもろこしシカゴ相場は、24年夏以降上昇、25年春以降は下落しているものの、前年同期比では上昇
- ◇ 為替相場は、25年1月以降円高で推移し、前年同期比で円高
- ◇ とうもろこし通関価格は、円高の影響により、前年同期比で下落

とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



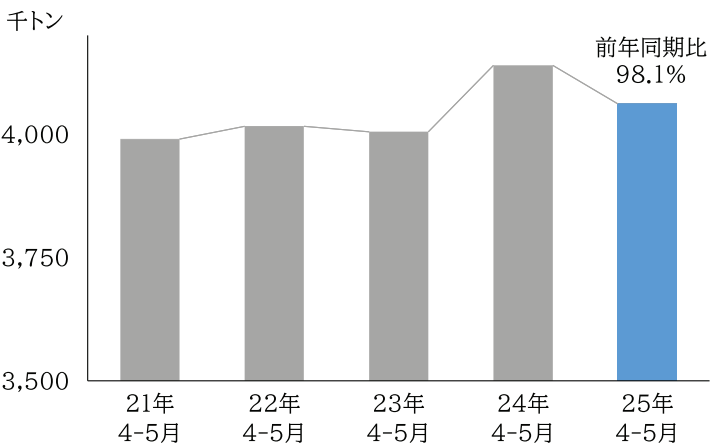
とうもろこし通関価格の推移



事業環境②

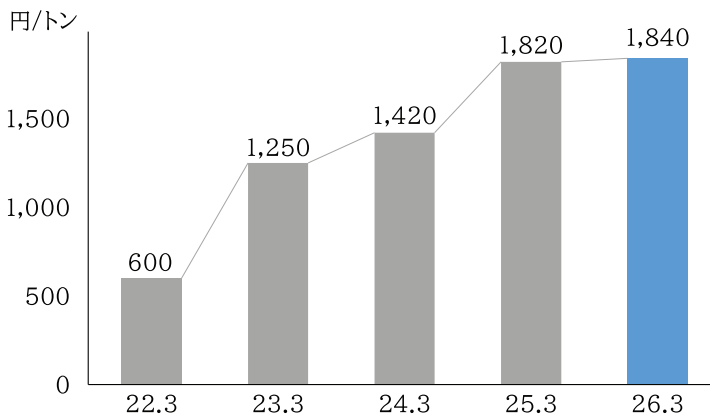
- ◇ 25年4-5月の畜産飼料の市場流通量は前年を下回ったものの、23年以前と比較すると増加
- ◇ 26.3期の基金積立金単価は前期比+20円/トンの微増となり、依然として高水準

畜産飼料 4-5月市場流通量の推移



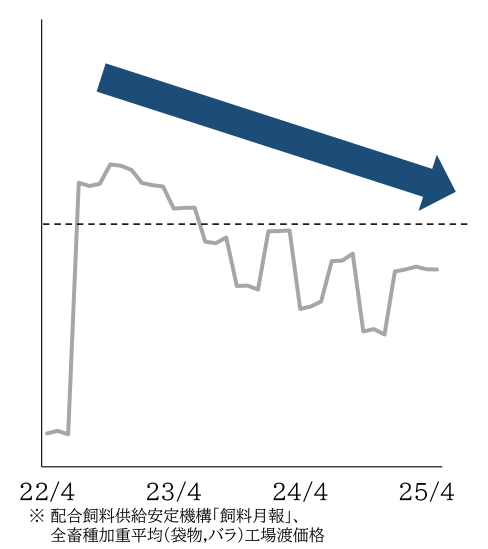
※「農林水産省飼料月報」、輸出用除く

基金積立金単価の推移

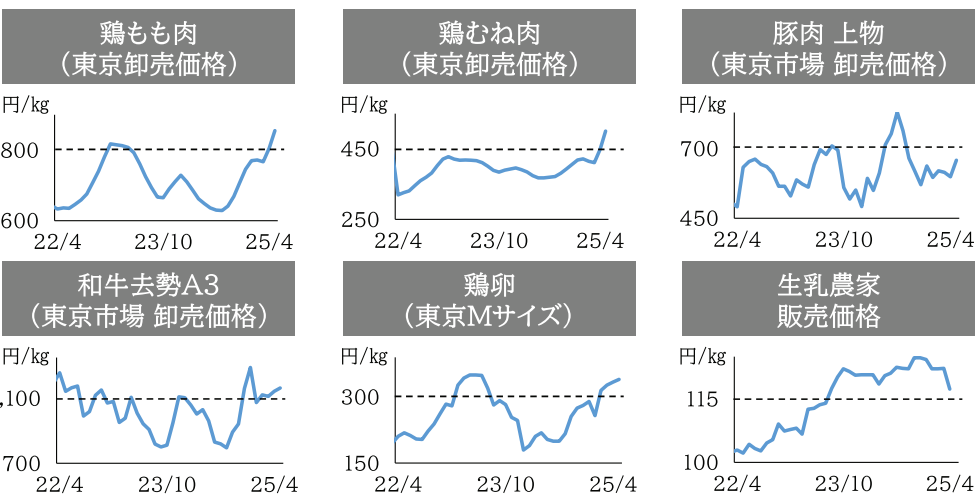


- ◇ 配合飼料価格は22年7月に高騰したものの、その後緩やかに下落
- ◇ 畜産物相場は牛肉価格は概ね横ばい、その他は過去と比較して高い水準で推移

配合飼料価格の推移



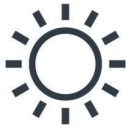
畜産物相場 ※(独)農畜産業振興機構「国内統計資料」



飼料セグメントの状況① 畜産飼料の動向

項目	前年同期比	要因	計画との比較
畜産飼料販売量	↑ +0.7億	◇ 前年同期比101.9% ○ 養豚用飼料において、お客様との生産性向上の取組みが評価され増加 ○ ブロイラー用飼料において、お客様への細やかな対応と製品の品質が評価され増加 ○ 養牛用飼料は、価格競争の激化により減少	☁ 通期計画 103%
環境に配慮した飼料販売量指数 (24.3期の販売量を100とした指数)	↑	◇ 24.3期対比141% ○ 採卵鶏用飼料において、窒素の排出を抑制する飼料のリニューアルが進み販売量が増加 ○ 温室効果ガス削減効果のある飼料添加物を配合した養牛用飼料の販売量が増加	☀ 通期計画 140%
差別化飼料の売上高構成比	↓ △0.4億	◇ 26.3期1Qの構成比45.2% ○ ブロイラー用飼料の汎用製品の拡販により差別化飼料の構成比が低下 ○ 養牛用飼料において、お客様の価格志向が強まり販売量が減少	☁ 通期計画 47.0%

飼料セグメントの状況② 変動費及び固定費の状況

項目	前年同期比	要因	計画との比較
変動費	 △0.7億	◇ 前年同期比で増加(利益を0.7億円押し下げ) ○ 電力費・燃料費単価は前年同期並み ○ 運賃単価(原材料搬入時および飼料運搬時)が値上げの影響もあり増加	
固定費	 △0.7億	◇ 前年同期比で増加(利益を0.7億円押し下げ) ○ 4月のベースアップ等により人件費が増加 ○ 25.3期2Qから設備投資が増加したことにより減価償却費が増加 ○ 安定供給を果たすため、工場老朽化対策を計画的に実施し、修繕消耗品費が増加	

...計画達成
 ...計画未達

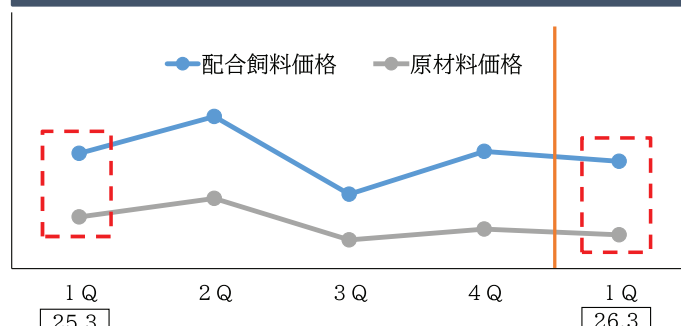
11

飼料セグメントの状況③ 原料ポジションの状況

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション	 +4.7億	◇ 前年同期比で改善 ○ 配合飼料価格は値下げしたものの、為替の円高が進展し、原材料価格が配合飼料価格以上に下落 ○ 製品ラインナップの刷新や配合割合の工夫等の取組みにより原価低減	

...計画達成
 ...計画未達

㊥配合飼料価格及び原材料価格の推移



【原料ポジションとは】

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- ◇ 配合飼料価格は四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と配合飼料価格の変動幅にギャップが発生することで、原料ポジションが改善、または、悪化

12

飼料セグメントの状況④ 水産飼料の動向

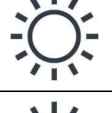
CHUBUSHIRYO CO.,LTD

項目	前年同期比	要因	計画との比較
水産飼料の 利益改善	 +0.3億	◇ 販売量は大幅に減少したものの、利益率及び水産物価格の上昇により、利益は微増	
利益率		◇ 主原料である魚粉及び代替原料である大豆粕の価格は大幅に下落 ◇ 配合割合の工夫により品質を維持しながらコストを抑制した新製品の投入	
販売量		◇ 前年同期比68.0% ○ 日本養魚飼料協会発表の生産量は83% ○ タイ及びハマチ用飼料は、成魚の尾数が少なく大幅に減少	 通期計画 107%
環境に配慮した 飼料販売量指数 (24.3期の販売量を100とした指数)		◇ 24.3期対比93.0% ○ タイ用飼料の販売量減少の影響を受け、減少	 通期計画 150%

・・・計画達成 ・・・計画未達 13

その他セグメントの状況

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

項目	前年同期比	要因	計画との比較
その他セグメント	 △0.7億	◇ 販売台数の減少等による畜産用機器の大幅な減益により、その他セグメント全体は前年同期比で減益	
鶏卵販売		◇ 相場高により特殊卵の販売が好調 ◇ 鳥インフルエンザの影響が残る関東に対して他地域からの応援対応を行い、変動費が増加	
肥料		◇ 販売量は、生産者の需要変化による減少が見込まれた中、変化に対応した製品の投入により概ね横ばい ◇ 原価低減の取組みにより利益は増加	
畜産用機器		◇ 前期末の補助金利用のための駆け込み需要の反動により、販売台数が減少	
保険代理業		◇ 主力の畜産保険の販売件数が堅調に推移	

・・・計画達成 ・・・計画未達 14

26.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 変動費及び固定費の状況	11
③ 原料ポジションの状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

◇ 今後の見通し①	16
◇ 今後の見通し②	17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス	21
◇ 参考資料	22

今後の見通し①

項目	見通し
畜産飼料販売量	◇ 採卵鶏用飼料は、鳥インフルエンザからの再開等もあり、夏場以降増加 ◇ 取組みが評価されているブロイラー用飼料と養豚用飼料は堅調に推移 ◇ 養牛用飼料は価格競争が激化し上期は伸び悩むも、下期は回復 ◇ 動物の疾病・廃業等により減少する可能性あり
差別化飼料の 売上高構成比	◇ 下記差別化飼料の提案営業に注力し、差別化飼料比率は回復 ○ 採卵鶏用飼料：アニマルウェルフェアに対応した飼料 ○ ブロイラー用飼料：鶏の骨を丈夫にし、健康に育つ飼料 ○ 養牛用飼料：牛のゲップによる温室効果ガス排出の低減を狙った飼料
原料ポジション	◇ 2Qは1Qと同水準で推移 ◇ 穀物相場及び為替の状況により、激しく変動する可能性あり

項目	見通し
水産飼料	◇ 7月より配合飼料価格が値下げとなり、市場流通量は一時的に増加する見込み ◇ 高水温や赤潮の発生により市場全体の飼料需要が減少する可能性あり ◇ ウナギ用飼料は新製品の提案等、取組みを強化したことで堅調に推移 ◇ タイ及びハマチ用飼料は成績改善の取組みにより販売量は回復する見込み ◇ 魚粉相場は概ね横ばいも、為替と海上運賃の影響で変動する可能性あり
その他セグメント	◇ 各事業とも課題への取組みを継続し、販売量、利益ともに計画通りに推移

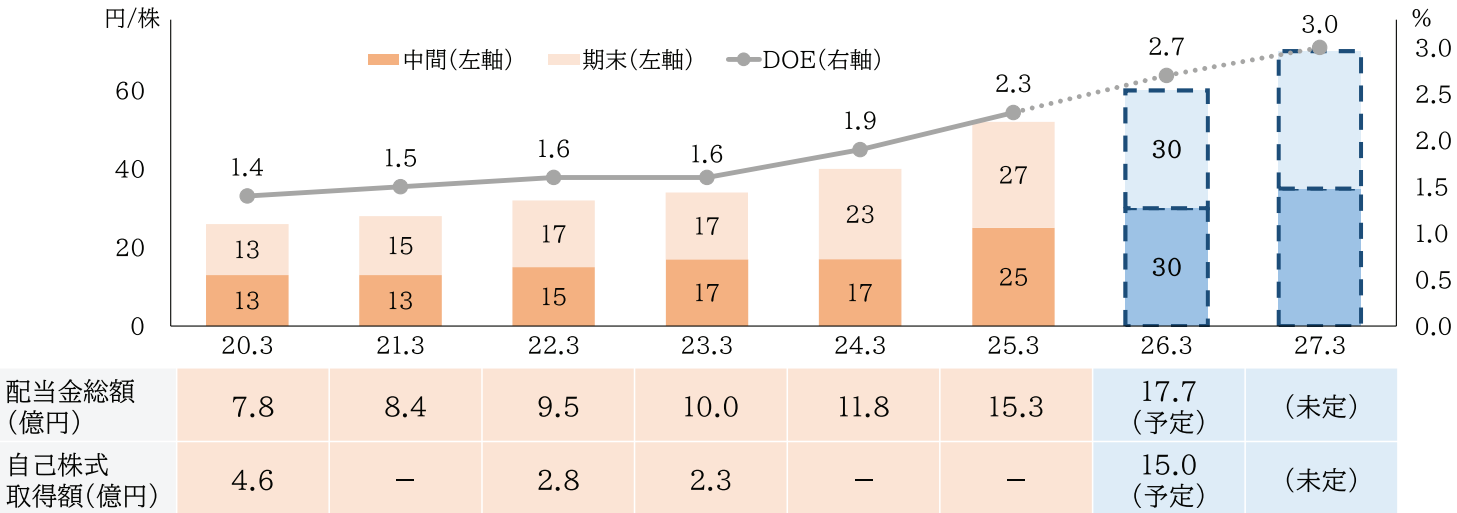
通期計画の達成を見込む

17

株主還元計画

- ◇ 26.3期は、中間配当金・期末配当金ともに30円/株とし、年60円/株(DOE2.7%)を予定
- ◇ 自己株式の取得を実施(2025年5月7日公表、115万株/15億円の自己株式取得を予定)

1株当たり配当金及びDOEの推移



※ 26.3期1Q自己株式取得額 2.3億円(2025年6月30日現在)

18

26.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 変動費及び固定費の状況	11
③ 原料ポジションの状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

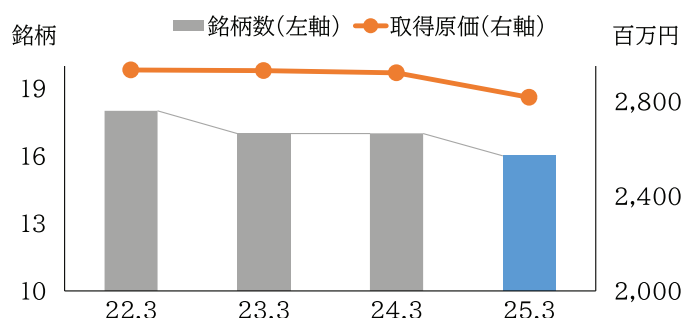
◇ 今後の見通し①	16
◇ 今後の見通し②	17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス	21
◇ 参考資料	22

コーポレートガバナンスコード対応

政策保有の上場株式保有状況



- ◇ 毎年、取締役会で個別に保有目的との整合性、保有による便益やリスクが資本コストに見合っているかを具体的に精査
- ◇ 保有の意義が乏しいと判断した株式については、縮減を進める

◆ 26.3期は、2銘柄を随時縮減

人材育成方針

- ◇ 多様性確保のため、中途採用を含め、性別・国籍を問わず、視点・経験等が異なる人材を積極的に採用
- ◇ 階層別研修、課題別研修の実施により、従業員の専門能力と労働生産性を向上
- ◇ 女性・外国人・中途採用者にかかわらず、能力・実績等を総合的に評価し、管理職として相応しい人材を登用

指標と目標

指標	実績	目標
採用者に占める女性の割合	28% (2022年度～2024年度平均)	30% (2026年度～2028年度平均)
管理職候補者である係長級の役職者に占める女性の割合	2% (2024年度)	5% (2028年度)

食育推進全国大会とは？

◇ 食育月間の6月に農林水産省が主催するイベント。今年は6/7(土)～8(日)に徳島県で開催され、『食の力は無限大～徳島から未来へつなぐ食育～』というテーマのもと、2日間で約24,000名が来場

当社展示ブースの様子

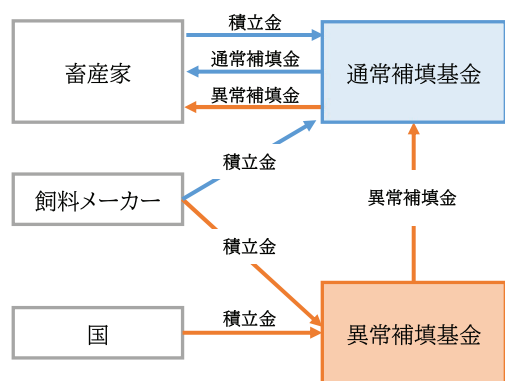


今後も食育を通じた社会貢献活動への取組みを強化

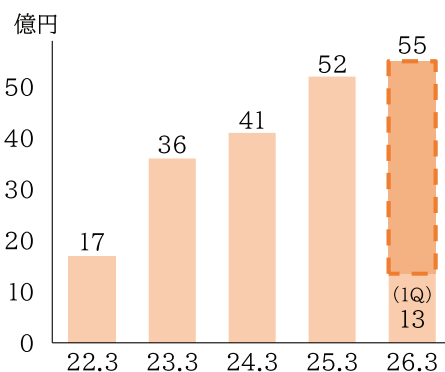
21

参考資料

配合飼料価格安定制度



④基金負担金の推移



差別化飼料

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

環境に配慮した飼料

- ◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料
- ◇ 従来の飼料と比べて鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料、魚粉を使わない水産飼料などがある

目的 ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

- 内容
- ◇ 通常補填と異常な価格高騰時に通常補填を補完する異常補填の二段階の仕組みにより、畜産家へ補填金を交付
 - ◇ 通常補填は畜産家と飼料メーカーが積立て
 - ◇ 異常補填は国と飼料メーカーが積立て
 - ◇ 積立金の額は財源により増減

22



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。